



令和六年八月一日(毎月一日発行)「まごころ」第十八巻八号

御祭神
 明治天皇(第一二二代の天皇)
 昭憲皇太后(明治天皇の皇后)
 創建 大正九年十一月一日

七五三詣のご案内

明治神宮では、七五三詣のご祈願を随時ご奉仕しております。
 お子様の健やかな成長を神様に感謝し、お祈りしましょう。

◆ご祈願・記念撮影(当日受付)

明治神宮神楽殿で午前9時から午後4時20分まで。

電話03-3379-9281

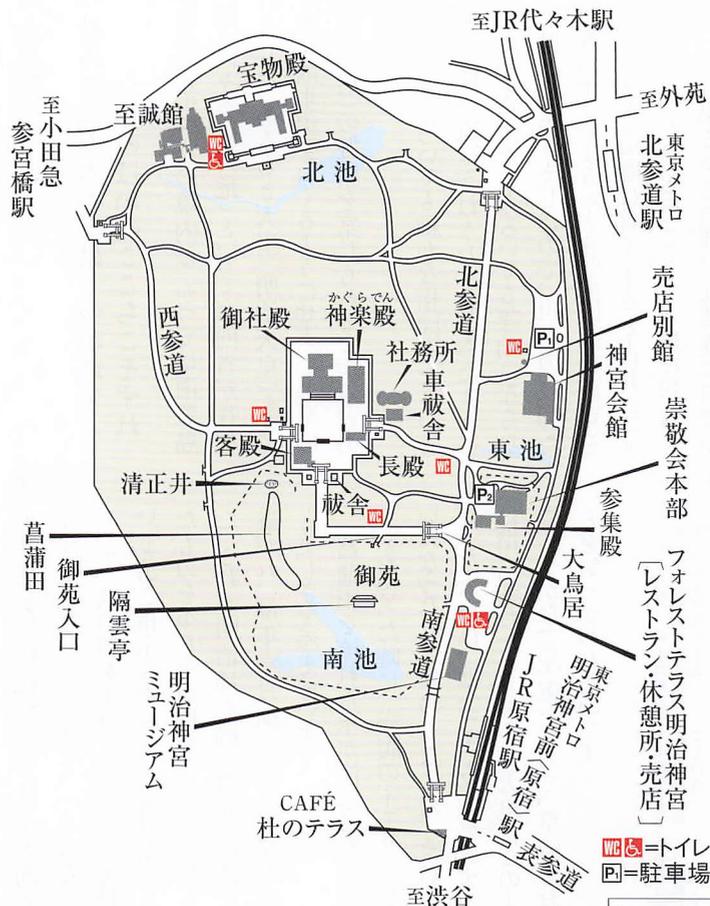
◆七五三詣プラン(予約制)

ご祈願、レンタル衣装、着付・ヘアメイクがセットになります。

詳しくは<https://www.meijikinenkan.gr.jp/753/>



明治神宮境内図



発行/明治神宮社務所
 〒151-8557 東京都渋谷区代々木神園町1-1
 電話 03-3379-5511(代)

明治神宮
 ウェブサイト▶



明治天皇御製・昭憲皇太后御歌

南手水舎奉掲

御製 道 (明治四十三年)

いとまなき身も朝夕にいそしみぬ

おもひ入りぬるみちのためには

暇いとまとてないわが身も、朝につけ夕べにつけていそしみはげんできた。
ひとたび思い定めて志した道を遂げるためには。

御歌 慎獨 (明治十二年以前)

人しれず思ふこころのよしあしも

照てともし分わかくらむ天地あめつちのかみ

人知れず密かに思う心の中のこと、天地の神はその善悪を照らし分けて、全てをお見とおしでいらつしやることでしょう。



東手水舎奉掲

桃ももの實みもおちつくしたる庭になほ

あつさをのこす蟬せみのこゑかな

御製 朝顔 (明治十九年)

時のまにしぼむはをしと水がめに

うかべてぞ見るあさがほの花

西手水舎奉掲

暮れかかるこだかきもりに鳴く蟬せみの

はや秋ちかき聲こゑこもるなり

御製 晩夏 (明治十一年以前)

さと人が夏草かりてかへりくる

野道のちみちすずしき夕月ゆふづき夜かな

御歌 夏野 (明治三十四年)

御製(ぎよせい)は天皇陛下が、御歌(みうた)は皇后陛下がおつくりになられた和歌を意味します

ご逸話であおぐ 29

明治天皇さま

昭憲皇太后さま

令和四年(2022)明治天皇百十年祭
令和六年(2024)昭憲皇太后百十年祭



代々木の里

うつせみの代々木の里はしづかにて
都みやこのほかのこころこそすれ

現在の明治神宮の境内は、かつては南豊島御料地(代々木御料地)として宮内省が管理していました。あるとき天皇(明治天皇)から、「代々木に散歩場をつくるようにせよ」と、皇后(昭憲皇太后)の健康を案じられてご指示がありました。

天皇は設計についても細かな指図をなさいました。例えば、「道はうねうねと曲がったように作るがよい。まっすぐにあるいても運動にならない」とご助言がありましたので、担当の技師たちは研究のすえ、ようやく設計図面の許可を得ました。さて、造園に着手すると古井戸(「清正井」)が見つかり、そのことを天皇に報告しますと、「水は出るか」と、澤宣元侍従に質問が

ありました。侍従が、「こんこんと湧き出ております」とお答えしますと、「それなら流れをつくつて、八つ橋を架け、菖蒲などを植えるがよい」とのご指示があり、新宿御苑などに咲いていたものを少しずつ株分けして、移し植えました。これが明治神宮御苑の花菖蒲として受け継がれ、毎年六月頃に花を咲かせ、苑内に二段と美しさを添えています。

菖蒲田を流れた水が注ぎこむ池で皇后が釣りなされた時に、赤腹のイモリがかかつてお笑いになったことがありました。それをお聞きになった天皇は、池へコイやフナを放すよう、侍従に指示されたそうです。天皇は、このようにきめこまやかな配慮をもって、皇后のお身体のことを気づかれたのです。

※このご逸話は、明治維新百三十年記念『明治天皇さま』御生誕百五十年記念『昭憲皇太后さま』共に明治神宮編より抜粋したものです。また、明治神宮ホームページでも特設ページを設けておりますのでぜひご覧ください。



「明治神宮御苑」